

「デジタルジャパン」の原案等の策定に関する意見

1. 個人 / 団体の別: 個人
2. 氏名 / 団体名: 非公開
3. 連絡先: 非公開
4. ご意見:

(1) デジタルジャパンの目標について

「目指すは世界を先導するデジタル情報活用国家」のメインタイトルとそのサブキャッチである「デジタルパワーで国民主役社会を実現」の間にギャップがあると感じられます。つまり、我が国が今後発展し国民が今以上の幸福を享受する、または、現在の状況を少なくとも維持して行くためには、とりもなおさず我が国の繁栄が絶対的に必要なこととなります。仮置きしている2つの目標およびそれを達成するための施策(例示の部分)全般の雰囲気はあまりにも国内に目が向きすぎているように感じられます。我が国の今後の発展を考えるならば、デジタルパワーを最大限に活用した国内生産性の向上や格差是正は当然のことですが、外貨を獲得できるためのデジタルパワー活用の視点を加えるべきと感じます。

つまり、デジタルパワーを活用した世界に通用する製品・サービスの開発が急務であり、これを目標を実現するための施策やその下位に留めておくのではなく、目標として掲げるべきと考えます。

(2) 目標を達成するために必要な施策について

4つの例示があるが、これらに加えて「情報セキュリティ施策(漏洩対策のような狭義な意味ではなくCIA全体をカバーする広義の意味として)」が必要ではないかと考えます。情報セキュリティ施策は4つの例示を進める上に置いて、共通項として存在し、これらの施策を推進すると必ず新しいリスク(広い意味でのリスク、現在の学校裏サイトの出現なども含む)が発生し、負の側面が現れます。したがって、この負の側面をできる限り最小に、できればゼロにするように常に考慮しておかなければならないと考えます。さらに、情報セキュリティに関して世界をリードできる立場に成ると、より安全・安心なサービスや製品が世界に供給できることになり、我が国の競争力の増強にもつながるものと思っております。逆の言い方をすれば、世界がインターネットでひとつになっている状況において、セキュリティ面を無視したDパワーは存在せず、このセキュリティ面から国際標準化などの主導権を取ることができなければ、せっかく開発し国内に定着したIT関連製品やサービスが海外製品に覆される可能性があります。したがって、これら4つの例示と同様のレベルに情報セキュリティ施策を位置づけるべきと考えます。情報セキュリティの重要課題は次世代の高度情報社会に対応した革新的な情報セキュリティ技術の開発と様々な場面で必要となる情報セキュリティ人材または十分な情報セキュリティ知識を持った情報技術者などであると考えます。

以下、例示されている4つの施策について、情報セキュリティの側面からコメントします。

デジタル情報流通の円滑化と効果的活用

情報をより共有しやすくするとともに、デジタル情報そのものにセキュリティの要件を持たせるような技術革新が必要になると考えます。セキュリティ活動の異なる組織間などにおいて、お互いの責任を明確にし、円滑な業務を実施するためにも必要な要素であると考えます。

デジタル情報・技術の活用で環境に貢献する施策

グリーンITなどによって社会の省エネルギー化や環境に負荷を掛けない社会を実現され高効率の社会が構築されることは確信できますが、一方、新たなリスクが発生することも考えられます。これらのリスクを予見し、かつ、できる限り回避できるような技術(システムや製品開発におけるプロセス管理などを含む)の開発も同時に行わなければならないと考えます。加えて、新しいテクノロジーの開発に対応できる高度IT技術者には、情報セキュリティに関する広い見識が必要であると考えます。

デジタル時代への対応をさらに積極的に進めるべき分野における施策インターネットや携帯電話ネットワークの活用において先進的な我が国は、その上で起こりうるセキュリティ事故などについても多くの経験や学習をしています。その経験や学習を活かして、デジタル情報を取り扱う基盤におけるセキュリティを基盤そのものに取り込むような革新的な技術を開発することで、電子政府、情報家電、自動車、教育、医療などの重要インフラ分野へのデジタル情報における安心・安全を提供できるだけでなく、デジタル技術があまり活用されていない分野(障害者対策、介護、企業経営など)においても、安心して情報システムの導入や活用を促すことができると考えています。

さらに、これらの基盤を開発する人材においては、幅広い利用環境に対応できるような視点を持ち、情報セキュリティについても詳しい人材がふさわしいのではないかと考えます。特にITアーキテクトにおいては、IT経営を支えることができる知識についても必要になると考えます。

デジタル情報・技術があまり活用されていなかった分野への導入・利用を図るデジタル情報や技術を活用できていない背景には、デジタル機器や情報システムに対して、とっつきにくい、使いにくい、不安に感じるなどの印象による部分が多いのではないかと考えます。

利用者が使いやすい環境を提供するためには、インタフェースの改善だけでなく、安心感を得るための情報セキュリティ技術を盛り込む必要があります。

日本は情報セキュリティのマネジメントにおいては他国に秀でるものがあり、これらを技術に落とし込むことで、デジタル情報や技術の国内活用が進むだけでなく、国際競争力を高めることも可能だと考えます。

以上